

審判講習会報告書

女性指名強化普及審判講習会		責任者:		竹澤 友美	
日時	2015年 12月 6日 (日)				
場所	埼玉県立 浦和商业高等学校				
講師名	小林良知氏(審査委員会) 山崎人志氏 伊藤裕一氏 小柳幸子氏 竹澤友美 (指導委員)				
講習会名	女性指名強化普及審判講習会				
対象者	日本公認	9人	参加者	7人	
開閉講式	開講式	有		閉講式	有
報告事項(講義の内容、講習会形式等)					
○開講式					
山崎人志氏:					
一つのPLAYを見極めて、簡単に吹いてしまうのではなくゲームレベル、選手のレベルに合った判定ができるようにチャレンジして欲しい。					
○レクチャー: 竹澤					
求められているのは『判定力』である					
「良い判定」のために「良い位置」で「見る」ことが大切で、そのために「四原則」を活用すること、「リード」と「トレール」の役割を果たすこと。そしてコートに立つ前に「審判員」として努力をすることが必要である。					
<ul style="list-style-type: none"> ・「良い判定」とは・・・罪なきを罰せず、ゲームレベル、RSBQ ・「良い位置」とは・・・確認できる、見極められる ・「見る」とは・・・現象が起こる前から最後まで ・「四原則」とは・・・判定するためのツール ・「リード」とは・・・先行すること、受けること ・「トレール」とは・・・追従すること ・「審判員」として・・・規則理解、バスケットボールの起源の理解、心身の準備 					
1つの吹いてしまった、吹けなかったということを考え悩みがちだが、なぜそうなってしまったのかを考える必要がある。そのためにはここにあげたような良い判定をするためのいくつかの要素の中で自分に足りないもの、その時に足りなかったものが何かを知り、修正、克服していくことが良い方向に進んでいくことになると思う。					
例えば試合後の講評で・・・良い位置にいたのにノーコールだった その原因は？ きちんと「見て」いなかった。「規則」に反していると思わなかった。勇気と決断(「心」の準備)ができていなかった。					
☆「見る」ということについて					
●例えばシュートが入る・・・選手は攻守が切り替る、審判はLとTが切り替る 誰がパスを受けそうか、どのように守ろうとしているか(プレス、Wチーム)←きちんと「見て」いますか？ →「見て」いないと、右サイドにパスが出てWチームになりボールが外へでる←どちらの審判も判定できない					
●例えば1つ笛を吹く判定をしたときに何秒前から「見て」いたか ・トラベリング・・・Dがプレッシャーをかけている、Oがライン際に追い込まれて困っている ・ファウル・・・Shotしようとしているところに、遅れたDが全力で戻ってきている →「見て」トラベリング、ファウルになりそうだと知っていますか					

●コートにいる10人の選手を把握した上で、自分のエリアで行われそうなこと、行われていることを「見て」
・知って・確認する →早く視野を確保し常にたくさんのものを「見る」ことを繰り返す

●時間、点差、ファウル(個人・チーム)、選手・ベンチの心理・ストレス、相手審判など、コートの外のものや
見えないものも「見る」努力をする

○実践講習

参加チーム:

メディセオ・三井住友・丸紅・実業団選抜・カプリオン・専修大学・玉川大学・法政大学・大東文化大学・立教大学
小林良知氏、伊藤裕一氏による講評、山崎人志氏、小柳幸子氏、竹澤による実技

○閉講式

山崎氏:選手の意図を感じて、こちらが決めつけてしまうことのないように、見極める努力を今後も続けて欲しい

特記事項、要望等

昨年に続き、女性の指名強化講習会を開催できたことをとても嬉しく思います。昨年同様にレベルの高い
ゲームを吹くことで去年の自分との変化を感じ、今までの活動とこれからの活動を自分なりに考えて欲しい
と思います。今後も高いレベルの経験を積む機会をつくり女性審判員全体の判定力の向上をはかりたいと
思います。

最後になりますがお忙しい中、貴重なお時間を使ってご指導いただきました講師の皆様にご感謝申し上げます。
また、この度は(株)メディセオ関係者の皆様から多大なご配慮をいただき、交流戦を講習会とさせていただきます。
貴重な機会をご提供いただきましてありがとうございました。